

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 071	提案機関名 神奈川県 県央地域県政総合センター
要望問題名 人工造林における省力化・低コスト化	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ・社会的課題である花粉症対策や多様な森林づくりを進めるため、令和5年度補正予算から国の森林環境保全整備事業が拡充され、特定機能回復事業として林相転換特別対策が追加された。 ・この事業を活用しスギ人工林の植え替えを促進するためには、実施要件である省力・低コスト造林についてのノウハウが欠かせない。 ・また、従来から活用している森林環境保全直接支援事業でも省力・低コスト造林への取組み状況が予算配分へ影響しており、新たなメニューである林相転換対策の活用や森林環境保全直接支援事業の予算確保のためにも低密度植栽等の省力・低コスト造林への取組みが必要である。 ・しかし、本県では1,500～2,000本/ha程度の低密度植栽や、下刈回数の削減等の事例が無いため、森林所有者や林業経営体に対して助言や指導することが困難である。 ・そこで、本県に合った省力・低コスト造林のノウハウを培い、積極的な導入を進めていくため、県管理森林内で低密度植栽をモデル的に実施し、その効果を検証する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 造林経費の軽減のため低コスト造林が注目され、当県でも国有林内で特定母樹の低密度試験植栽が実施されており、全国的に試験が行なわれているところです。ただし、植栽本数密度と林地のうっ閉による下刈りの軽減は相対する関係にありますので総合的に検討する必要があります。引き続き情報収集に努めるほか、県有林に試験施工地を設定し効果の検証・検討を進めてまいります。また、現在進めている無花粉スギによるエリートツリーの供給を見据えて密度試験の実施も検討いたします。ただし調査には一定の期間が必要であり、その点についてはご容赦願います。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備 考			